

建設会社における災害時の事業継続力認定

B C P 訓練事例集

国土交通省 中部地方整備局

目 次

1. はじめに	1
2. 本書の目的	1
3. B C P 訓練に必要な P D C A	2
4. 掲載事例の構成	4
5. 訓練事例集	6

1. はじめに

近年、全国的に大規模自然災害が激甚化・頻発化し、南海トラフ巨大地震等の大規模地震が切迫化するなかで、発災後にいち早く現場に駆け付け、迅速に社会インフラの応急復旧を行う建設会社に求められる役割も、ますます大きなものとなってきています。

中部地方整備局においても、大規模自然災害発生時に実際に応急復旧業務等の役割を担っている建設会社と連携して災害対応に取り組んでいくことが重要であると考え、「建設会社における災害時の事業継続力認定制度」（以下、「事業継続力認定制度」という。）を創設するなど、地域防災力の向上に努めてきました。

事業継続力認定制度におきましては、令和２年度の運用開始以降、多くの建設会社の皆様に申請して頂き、事業継続力を高める体制づくりを推進しているところです。

今後は各社が策定したＢＣＰについて、発災時に有効に機能するように定期的な点検、不具合や課題等の把握、改善・見直しなどの繰り返しにより、ＢＣＰの内容の充実を図り、実効性を向上させていく取組も重要となってきます。引き続き、建設会社の皆様との連携を強化して、事業継続力を高める一連の取組を更に推進していきます。

2. 本書の目的

ＢＣＰの実効性向上に関する取組においては、ＢＣＰに基づく訓練（以下、「ＢＣＰ訓練」という。）を実施して、課題や問題点を把握して、改善していくことが非常に有効です。そのため、事業継続力認定制度においても、継続申請を行う際には、訓練の実施記録、ＢＣＰの改善の実施記録、定期的な点検の実施記録の記載を求めています。

本書は、ＢＣＰ訓練の経験がない、訓練経験が少ない、更に有効な訓練を実施したいという建設会社の皆様の声に応えて、認定企業のなかからＢＣＰ訓練についてヒアリング調査等を行い、様々な訓練事例をとりまとめたものです。

ＢＣＰ訓練については、各社の特性や訓練をする目的に応じて有効な訓練が異なるため、本書のように訓練を実施しなければいけないというわけではありません。本書に掲載している他の建設会社の訓練事例を参考として頂き、各社の創意工夫により有効なＢＣＰ訓練を計画・実行し、ＢＣＰの実効性向上に役立てて頂ければ幸いです。

本書を作成するに当たり、訓練事例のヒアリング調査等にご協力していただいた建設会社の皆さまには、この場を借りて、厚くお礼を申し上げます。

3. B C P 訓練に必要な P D C A

B C P の実効性を高めるために効果的な訓練を行うには、**P**（訓練の計画）、**D**（訓練の実施）、**C**（訓練の評価）、**A**（B C P の改善）のサイクルを着実に実行していくことが重要です。

本書では PDCA の具体的なイメージが分かりやすいように、建設会社の訓練事例を紹介しています。

ここでは、PDCA の全体像を理解してもらうために、PDCA の各段階においてそれぞれの取組のポイントとなる事項と流れを整理しています。

P

Plan【訓練の計画】

B C P に基づき、訓練の目的を設定し有効な訓練計画を策定

- 訓練を計画する際に重要なことは訓練の目的を明確にすることです。誰が何を行い、何を習得してもらうかを決定します。
- 訓練の目的に応じて、訓練の参加者、詳細な訓練内容等を決め、目的を達成するために有効な訓練方法（机上訓練、実動訓練など）を選定します。
- 訓練の経験がない・少ない場合は、まずはできることから始めてください。難しい訓練ができるようにすることが目的ではありません。反復して訓練を実施し、B C P を円滑に発動できるようにすることを目指しましょう。
- 訓練に習熟し、更なる実効性の向上を図る際には、訓練の規模を段階的に大きくしたり、ロールプレイング型の訓練の実施など難易度をあげていくことを検討します。
- 訓練方法等が決まったあとは、訓練シナリオの作成、当日の役割分担の設定、訓練を行う会場、資機材等の事前準備を行います。必要に応じて訓練参加者に訓練概要を伝えるなど、当日の訓練が円滑に進むように配慮して、事前準備を行います。

D

Do【訓練の実施】

訓練計画に基づき、B C P 訓練を実施

- 大規模自然災害時は、道路等のインフラが被害を受ける、固定電話・携帯電話が使えない、ライフライン（電気・ガス・水道など）が止まる、社員が参集できないなど、様々な問題が生じることも想定されます。自社の地域で想定されるハザードを訓練の付加条件として想定または演出して臨場感を高めて訓練を行うことも実効性の向上に有効です。
- 訓練では発災時の初期行動、災害対応業務等を実際に実施して、手順や重要業務を習熟するほかに、訓練を通しての気づきから、課題や問題点を把握することに意味があります。訓練中に気が付いたことはメモを取り、記録を残しましょう。
- 訓練では、訓練の参加者同士で意見交換を行うなど、コミュニケーションを図ることが、社員や関係者同士の連携を深めることに繋がります。
- 訓練を円滑に進め、効果的な訓練とするためには、ファシリテーター（司会・進行役）を設置することも検討しましょう。



Check【訓練の評価】

実施した訓練の評価、課題の把握、結果の記録

- 訓練後は反省会、参加者へのアンケート等を行い、訓練を通しての気づきや課題・問題点等を共有する訓練の評価を実施しましょう。
- 参加者の役割ごとに分かれて訓練結果を振り返り、訓練を実施する中で気が付いたことやそれに対する対応、今後の課題・対策等を発表する機会の場を設けるなど、全員で共有して意見交換を行い、BCPへの理解を深めていくことも有効です。
- 反省会を行うことが難しい、全員参加することが難しいなどの場合には、参加者へのアンケートを実施するなど、何らかの方法で意見を集約できるように工夫します。
- 訓練の振り返りは訓練計画の段階でどのように行うか、あらかじめ決めておくと計画的に実施できます。
- 訓練の評価は、参加者自らの振り返りのほか、客観的に訓練を観察し評価する担当を配置する方法、定量的な指標を定めて評価する方法、経営者、外部講師等が講評する方法などもあります。
- 反省会やアンケート結果などは、訓練結果として訓練概要などと共に記録を残します。記録は次回の訓練計画やBCPの改善に有効に活用できます。



Act【BCPの改善】

把握した課題に対する改善策の検討、BCP・次回訓練計画への反映

- 訓練の評価で把握した課題、気づきなどは対策・改善方法を検討し、BCPや次回の訓練計画に反映させます。このPDCAサイクルを着実に回すことで、BCPの実効性向上が期待されます。
- 対策や改善に直ぐに対応できない場合は、対策や改善が遅れることによる影響等を考慮した上で対策や改善の優先度をつけて順次対応する、または誰が、いつ、実施するかを明確にしておくなどの対応を検討しましょう。
- 対策や改善を図った内容は、次回の訓練で効果を確認することも重要です。定期的な訓練により、PDCAを繰り返し、BCPの実効性の向上を目指しましょう。

4. 掲載事例の構成

本書はBCP訓練のヒアリング調査等を行った建設会社が実際に実施・参加した訓練事例を整理してとりまとめています。BCP訓練においては、**P**（訓練の計画）、**D**（訓練の実施）、**C**（訓練の評価）、**A**（BCPの改善）の一連の流れが重要なため、それぞれの項目毎に建設会社が工夫して実施している訓練事例や有効な訓練事例をピックアップしています。

1. 基本情報

掲載している建設会社及び主な訓練事例の基本情報を掲載しています。

訓練事例を参照する際に、建設会社の概要や実施している訓練の規模・時間等の情報が分かりやすいように整理しています。

事例① 株式会社加藤建設	
■所在地 愛知県海部郡蟹江町	■従業員数 約 340 人 ■資本金 約 10,000 万円
訓練の詳細情報	
■訓練の種類 総合実動訓練 等	■訓練実施場所 本社社屋、他支社、寮（緊急避難所） ■訓練参加者 全社員、他支社、協力会社、地元住民
■訓練時間 1～2時間	■想定されるハザード 南海トラフ巨大地震等、大規模水害

【ハザード情報】

訓練事例を参考とする際に、想定するハザードにより有効な訓練事例は異なってくるため、各建設会社がBCP策定の際に想定しているハザードを以下のとおり区分し表示しています。

(例)



地震・津波



洪水



火山災害



土砂災害

2. PDCA の流れとポイント

BCP 訓練を実施するうえで重要な、P（訓練の計画）、D（訓練の実施）、C（訓練の評価）、A（BCPの改善）の一連の流れを項目ごとに整理しています。



Plan【訓練の計画】

BCPに基づき、訓練の目的を設定し有効な訓練計画を策定



Do【訓練の実施】

訓練計画に基づき、BCP 訓練を実施



Check【訓練の評価】

実施した訓練の評価、課題の把握、結果の記録



Act【BCPの改善】

把握した課題に対する改善策の検討、BCP・次回訓練計画への反映

3. 建設会社各社が工夫している実効性向上の取組

建設会社の取組んでいるBCP 訓練のなかで、過去に実施した訓練から見直しを図り工夫している事項、BCPの実効性向上に有効な事項は **Pick Up 記事**として紹介しています。

■ 訓練に変化をつけて対応力の向上



同社では総合訓練を継続して実施してきたため、参加者の習熟度が上がり、訓練も円滑になった一方で、参加者からは訓練のマンネリ化を感じるという声も…。次のステップとして、訓練に変化をつける工夫など、想定外の事象への対応力向上にも取り組んでいます。

【マンネリ化防止のための工夫】

- 訓練は同じ訓練を定期的 to 実施することで、参加者の習熟度が向上し、BCP 業務の円滑な遂行が図られます。一方で、訓練参加者の習熟度が上がると訓練のマンネリ化が生じることも想定されるため、訓練に変化をつけ、対応力を向上させる工夫を実施しています。

5. 訓練事例集

訓練事例一覧

	建設会社	実施している訓練の種類	頁
①	(株)加藤建設 (愛知県)	● 総合実動訓練（机上・実動） ● 災害時対応の確認訓練 ● 災害対策本部要員参集訓練 ● メールによる協力会社応援依頼訓練 ● 衛星電話による東京地区応援依頼訓練 ● 災害協定業務（被災調査報告訓練） ● 非常用電源運転訓練 ● 緊急避難所開設訓練（机上・実動）	P.7～ P.12
②	(株)グロージオ (静岡県)	● 災害対策本部の設置 ● 調査班（パトロール）との情報伝達訓練 ● 仮設トイレ設営、非常用電源稼働 ● 災害対策機械操作（合同訓練への参加） ● 安否確認訓練、非常参集訓練 ● 情報伝達訓練（協定者、現場） ● AED 手順確認訓練	P.13～ P.18
③	土屋建設(株) (静岡県)	● 災害時対応の確認訓練（机上訓練） ● 避難誘導訓練、初期消火訓練 ● 安否確認訓練 ● 自家発電への切り替え訓練 ● 保有資機材の点検 ● バックアップデータ立ち上げ訓練 ● 災害対策車両の実動訓練（合同訓練）	P.19～ P.23

事例①

株式会社加藤建設



所在地

愛知県海部郡蟹江町

■ 従業員数 約 340 人

■ 資本金 約 10,000 万円

訓練の詳細情報

訓練の種類

総合実動訓練 等

■ 訓練実施場所 本社社屋、他支社、寮（緊急避難所）

■ 訓練参加者 全社員、他支社、協力会社、地元住民

訓練時間

1 ～ 2 時間

■ 想定されるハザード 南海トラフ巨大地震等、大規模水害



Plan【訓練の計画】

BCPに基づき、訓練の目的を設定し有効な訓練計画を策定

■ 実施している訓練概要

- 災害時対応の確認訓練（机上・実動）
- 災害対策本部要員参集訓練
- メールによる協力会社応援依頼訓練
- 衛星電話による東京地区応援依頼訓練
- 災害協定業務（被災調査報告訓練）
- 非常用電源運転訓練
- 緊急避難所開設訓練（机上・実動）

■ 訓練の内容・目的等

- 訓練によりBCPを円滑に実施できるようにする
- 緊急参集メンバーによるBCPに基づく応急対応の実施
- BCPの主要部分を実動訓練により確認
- 各要員による役割分担の確認
- 固定電話・携帯電話を使用せず衛星電話、安否確認システムを用いた情報伝達の確認

【訓練計画の立案】

- 訓練の目的や内容に応じて、訓練参加者は災害対策本部や各班メンバー等を対象にしていますが、BCP一連の稼働状況を確認するために、自社社員のほか多くの関係者を含めた総合実動訓練を計画しています。
- 毎年2回実施し、机上・実動を使い分ける、時間帯を変更するなどの工夫をしています。

訓練名称	訓練の目的・内容	参加者	予定時期	実施場所	企画実施部署
災害時対応の確認訓練（机上訓練）	緊急参集メンバーが事業継続計画の応急対応、事業継続の部分を読み合わせ、各要員が行うべき対応を確認する。	災害対策本部 及び各班 メンバー	毎年4月、9月	本社、各拠点 各現場	安全衛生災害対策室
災害時対応の確認訓練（実働訓練）	緊急参集メンバーが事業継続計画の応急対応、事業継続の主要部分を実働訓練する。	災害対策本部 及び各班 メンバー	毎年4月、9月		
安否確認訓練	安否確認システムにより、社員全員の携帯電話メールに対し安否を問う連絡をし、回答を求め、結果を集計する。	全社員	毎年4月、9月	本社、各拠点 各現場	安全衛生災害対策室
緊急連絡訓練	固定電話、携帯電話を使用せず、衛星電話や安否確認システムを利用して、交互に連絡をとる。	災害対策本部 及び各班 メンバー	毎年4月、9月	災害対策本部	安全衛生災害対策室
非常用発電訓練	非常用発電機を始動させ、10分間試運転する。	GM室総務課員	毎年4月、9月	同社では、これまでの訓練の実績が多いため多彩な訓練を実施していますが、訓練熟度に応じて、効果的な訓練を計画することがポイントです。	
緊急避難所開設訓練	蟹江町の緊急避難場所として、避難所の開設、近隣住民受入、閉鎖の訓練を行なう。（4月は机上、9月は実地）	GM室総務課員	毎年4月、9月		

【訓練シナリオの作成】

- 訓練を円滑に進めるためには訓練シナリオを作成し、訓練の具体的な内容を計画します。
- 設定した訓練の目的を達成するために、誰が、いつ、どこで、何をするかを明確にして、訓練参加者が自らの役割を理解し、訓練当日に円滑に行動できるようにします。

【総合実動訓練のシナリオ例】

災害時の事業継続計画による
2021年7月29日

第17回 防災訓練 概要計画書（案）
【本社地区、東京地区 合同】

1. 防災訓練の目的
災害などの緊急時に、当社事業継続計画が円滑に推し進められるよう訓練する。

2. 実施日 2021年9月6日（月） 14:00～15:30（予定）

3. 参加者【本社地区】
① 災害対策本部要員
取締役社長、取締役副社長、管理部取締役、安全衛生災害対策課長
CS本部長、CS副本部長、CS営業部長、GT副本部長、U-I副本部長、安災室、総務課スタッフ
② 本社地区（本社管理部門、CS事業部、GT事業部、U-I事業部）の社員

【東京地区】
① 災害対策本部要員
CS東日本副本部長、GT工事部東日本副本部長、代理、代理
② 東京地区（CS事業部、GT事業部、U-I事業部）の社員

4. 災害想定
9月6日 日曜日14:00 海溝型地震（東海・東南海・南海3連動地震M8.7発生）、震度6強
部分的に液状化、倒壊建物あり、道路その他ライフライン損傷あり、交通渋滞、公共交通機関停止、
電話通話困難、社内は平常勤務、全作業所稼働中
当社被害・・・事務所内備品散乱、現場資機材散乱詳細被害確認中、人的被害なし

5. 訓練内容
本社地区・東京地区 事業継続計画の手順に沿った訓練を行い、災害時に備える。
14:00 【訓練開始】 災害想定海溝型地震が発生した旨のメールを全社員に二重送信する。
一斉送信は、安否確認システムの予約送信により自動送信する。
【シェイクアウト実施】 すべての社員は各持ち場でシェイクアウトを実施する。
その場で「姿勢を低くする」「体と頭を守る」「揺れが収まるまで動かない」(1分間)の3つの行動をとる。

14:10 【本社地区非常用発電】 停電時、自動運転されるが、今回は10分間試運転する。（GM室総務課）

14:10 【本社地区、東京地区 災害対策本部立ち上げ】
非常配備の社内体制となり、各地区の本部要員は指定場所（本社3F、四街道）に自動参集する。

14:15 【重要業務の開始 本社地区・東京地区合同】
連絡手段は、安否確認システム、メール、衛星電話、フェイスタイムのいずれかとする。
① 各地区社員の安否確認と報告（1時間以内完了を目標）
全社員は緊急メールから安否確認システムにログインし、安否確認の設問に回答する。
所属長は「安否確認システム」の「連絡状況」より、部下からの報告を確認する。
・安否確認が未回答の社員には、所属長が積極的に連絡を取る。
・職場責任者は「衛星電話又は安否確認システム」にて集計状況を災害対策本部に報告する。
本社地区災害対策本部 衛星電話番号
0000-0000-XXXX
0000-0000-XXXX
衛生災害対策課
増設状況
・災害対策本部へ報告する。
・内完了を目標。
・増設状況についても報告する。
・手順は①と同様、設問フォームから回答する。

14:15 ③-1 災害協定業務に着手する【本社地区】
・今回は以下の4協定について、巡回して被災調査を行う。

協定名	協定相手	巡回範囲	巡回者	巡回時間
① 協定1	協定相手	1号、23号、302号 当地区（海部周辺）	CS副本部長が2名/協定毎に任命する（緊急配備表より）	15:00までを目安とする
② 協定2	協定相手	1号、23号、302号 当地区（海部周辺）	CS副本部長が2名/協定毎に任命する（緊急配備表より）	15:00までを目安とする
③ 協定3	協定相手	1号、23号、302号 当地区（海部周辺）	CS副本部長が2名/協定毎に任命する（緊急配備表より）	15:00までを目安とする
④ 協定4	協定相手	1号、23号、302号 当地区（海部周辺）	CS副本部長が2名/協定毎に任命する（緊急配備表より）	15:00までを目安とする

③-2 災害協定業務に着手する【東京地区】
・関東地方整備局千葉圏道事務所災害協定により、巡回して被災調査を行う。
1) 巡回範囲 船橋出張所管内国道16号 船橋市小室（白井市境）～八千代市米本（八千代橋南詰）
2) 巡回者 東京地区災害対策本部が任命する
3) 巡回時間 15:00までを目安とする

14:15 ④ 協力会社への出動依頼
【本社地区】CS第1工事部⇒協力会社【東京地区】CS⇒協力会社
・依頼をメールにて行う。（労務・機材・資材の各代表的な会社へメール発信）
・協力会社責任者より受諾メールを受信した後、本部へ報告する。

14:15 ⑤ 本社及び前波寮の緊急避難所開設と近隣住民受入れ（4月机上訓練、9月実地訓練）
・総務課は避難者の本社4階及び前波寮への誘導と避難者名簿を作成し、蛋江町へ報告する。（協定履行）

14:30 ⑥ 他事業部への応援依頼（机上訓練）
・GT事業部東日本へ労務と機材の応援依頼をする（本社地区本部や東京地区本部 GT工事部東日本）

15:10 災害協定業務の報告
・巡回者は巡回結果を災害対策本部へ報告する。【東京地区は本社地区災害対策本部へも報告】
また、各協定に基づき協定先官庁へも報告する。【東京地区は省略】
・報告は安否確認システム「災害協定業務報告」に、「〇〇巡回、異常なし、氏名」と書き込み、現場写真1枚を添付し送信する。報告は、中間報告と完了報告の2回送信する。（「中間・完了」を明記する）

15:20 災害対策本部より総務をいただく。
15:25 訓練終了
15:30 災害対策本部 解散

※ 訓練結果を全社員へフィードバックする（事務局より）

【訓練フロー図】

【シェイクアウト】
シェイクアウト訓練の特徴は、様々な人たちが、様々な場所で同時に訓練を行う点にあります。
日本国内でも、各自が主体で行なっています。

訓練可能なシチュエーション
1. 地震発生時
2. 火災発生時
3. 水害発生時
4. その他

1. 地震発生時
2. 火災発生時
3. 水害発生時
4. その他

いつ、誰が、何を行うかを示して、
役割分担を明確にします

【訓練内容の事前周知】

- 訓練には事前にシナリオを作成、参加者に周知し BCP に関する手順を確認する訓練と、事前に情報を周知せずに特定の条件下で、その場で状況判断を行うようなロールプレイング型の訓練があります。BCP 稼働手順を確認するような訓練の場合は、役割分担や各自の訓練当日の行動・手順を理解してもらうために、事前の情報周知を適切にしておきましょう。

■ 非常用電源設備の稼働訓練

Pick Up

発災時には、ライフラインが停止することも想定されるため、電力・燃料等の確保も大きな課題となります。非常用電源設備を準備していても、過去の災害時に劣化により稼働しない、操作方法が分からない事例もあったため、訓練により実際に稼働させることも重要です。

- 非常用電源設備は、普段動かすことがなく、異常にも気がつきにくいので、訓練時に実際に稼働させることで、バッテリーの電圧低下、機器故障などを発見することもできます。
- 電源等の確保は発災後、早期な対応が必要になるため、誰もが起動できるように訓練しておくことが必要です。また、大規模な災害時には早期にライフラインが回復することは期待できないため、どの程度の燃料を確保しておくかも検討しておきましょう。

【総合実動訓練のシナリオ例】

第17回 防災訓練 重要業務 実施手順(補足)【本社地区、東京地区 合同】

【重要業務】（本社地区、東京地区合同）

14:15 ①、② 各地支社の安否及び施工現場の確認報告（1時間以内で完了を目標）
 ・社員はインターネット実施後、文書化した情報を支社から安否確認メール・ログイン、
 安否確認の返信に回答し送信する。
 訪問内容は、1.怪我の有無・2.家屋の安否・3.土砂可否・4.交通手段・5.現場の被災状況
 6.家屋での備えアンテナ」とします。
 現場確認報告は現場従事者の方のみ回答してください。

14:30 ・ 職場責任者は安否確認システムにログインし、「連絡状況」から、所属員の安否報告してください。

・ 未報告の所属員には継続的に連絡を取り、回答を促す。

・ 災害対策本部(本社・東京)でも、「連絡状況」から、社員の安否報告状況の把握を

15:00 各職場責任者は、安否確認を完了させ、上長及び各災害対策本部へ報告します。
・衛星電話又は安否確認システム掲示板にて下記内容を報告してください。
『××部 △△名中○○名安否確認終了。氏名』

* 事前に衛星電話の使用確認、練習をしておいてください。

1	〇〇〇〇-△△△△-XXXX
2	〇〇〇〇-△△△△-XXXX

15:15 安全衛生災害対策室課長は、集計結果を本部長へ報告します。

○ 戦場責任者一覧表

職別、現場業務担当部署別	職務責任者	拠点	部署	職務責任者	拠点
役員、現場業務担当部署別					中部事務所
GM室、経営企画室		本社			大阪（支）
FA室、GE-KATO					
安全衛生担当部署					
CS生産技術部					東京支店
CS第1工.事務・工事課					
CS第2工.事務・工事1課					
CS第3工.事務・工事2課					西部法律事務所
CS保安部 総務課					
CS保安部 請負課					
GT技術営業部（東海）					東北（支）
GT技術営業部（東海）		前法律事務所			

* 印の方は、本館詰めとなりますので、代行者を決めておいてください

14:15 ③-1 災害協定業務に着手する。【本社地区】

① 災害協定締結率を高める【本任地担当】 ※ 町では以下の協定について、随時広報・説明会を行う			
協定名	愛知県建設事務所 愛知市建設事務所	内川内災需協会 水谷川(左岸)対策班	
巡回範囲	瀬尾江川(左岸)対策班 瀬尾江川(右岸)対策班 栗川(右岸)型地区対策班	日、月、23号、30号 当分(江ノ島)南高須地区 江内川(左岸) 万寿大橋～新江内川河口	水谷川(左岸)対策班 河川～上流(※)管理班等
巡回者	CS副本部長が2名/名を協定毎に1任する(※緊急配備表より)		
巡回時間			

③-2 災害協定業務に着手する【東京地区】

・関東地方整備局と国土交通事務所災害協定により、巡回して被災調査を行う。

- 1) 巡回範囲：船橋出張所管内国道16号 船橋市小室(白井市境)～八千代市米本(八千代橋南詰)
- 2) 巡回者：東京地区災害対策本部長が任命する
- 3) 巡回時間：15:00までを目安とする

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の状況により、訓練内容の変更をさせていただく場合があります。

14:15 ④ 協力会社への出勤依頼
・依頼をメールにて行う。(労務・機械・資材の各代表的な会社へメール発信します)

本社地区	(CS第1工部部 協力会社)		メールアドレス	携帯電話
労務	会社名	担当者		
IT				
ダンプ				
機械				
IT				
その他				

するため、作業員5名、2t4tダンブ2台を要請します。CS資材置場へ
 するため、10tダンブ4台を要請します。CS資材置場へ
 するため、0.4~0.7tバックホウ2台を要請します。CS資材置場へ
 するため、砕石(40~90)50mを要請します。CS資材置場へ
 するため、大型土のう袋200枚を要請します。CS資材置場へ

【東京地区】(CS東日本工事部 協力会社)

会社名	担当者	メールアドレス	携帯電話
労務			
〃			
機械			
〃			
資材			

・ 当社からの依頼は以下の内容とします。

『道路損傷修復旧をするため、作業員5名、2t4tダンプ2台を要請します。 四街道事務所へ』
 『道路損傷修復旧をするため、0.4～0.7tバックホウ2台を要請します。 四街道事務所へ』
 『道路損傷修復旧をするため、碎石(40～90) 50m³を要請します。 四街道事務所へ』

14:15 ⑤ 本社及び前波寮の緊急避難所開設と近隣住民受入れ（4月机上訓練、9月実地訓練）
・近隣避難者が本社玄関、前波寮に本社、総務課はその旨を災害対策本部へ報告する

14:50 ⑥ 総合実動訓練は、時系列で多くの関係者がそれぞれの役割に応じた行動を行うため、入念な準備が必要となります。

15:00 提議者 関係者間の連携や情報伝達における課題の把握などが実状に即したものとなり、訓練を通して課題を把握して、適切な対策を講じていくことで、BCPの実効性向上も期待されます。

■ 総合的な訓練による関係者との連携強化

Pick Up

自社だけではなく、多くの関係者（協力会社、近隣住民、自治体、他支社、施工中の現場など）も参加した総合的な訓練を実施することで、発災時に重要なポイントとなる情報伝達について、実際の通信手段を試し、円滑に情報伝達できるか確認することができます。

【総合的な訓練によるメリット】

- 大規模な災害時には広域的な被害も想定されるため、他地域の支社などの連携を強化することで被災のない地域からの**サポート体制を強化**できる
- 地元住民や地元自治体など地域と連携した訓練を実施することで、連携が強化され、**地域の防災力向上、地域社会への貢献**のほか、**建設会社の社会的評価の向上**などにも繋がる
- 協力会社、協定提携先、他支社も参加することで、発災時に課題となることが多い情報伝達について、実施に想定している通信手段を用いた実効性の高い訓練を行うことができる

【総合的な訓練を行う時の留意点】

- 参加する関係者が多い総合実動訓練は、事前準備が重要です。関係者との情報伝達手段を準備するなど、関係者を含めた訓練シナリオを作成し、**訓練情報を事前に周知・調整しておくことが重要**です。





Do【訓練の実施】

訓練実施計画に基づき、BCP 訓練を実施

【訓練の状況】

【災害想定】：海溝型地震、震度 6 弱

【付与条件】：平日（14 時）、就業時間内、部分的に液状化あり、道路損傷あり、交通渋滞、交通機関停止、電話使用不可

- 14：00～ シェイクアウト訓練から始まり、安否確認システムを活用して、メールで全社員に発災の連絡を一斉送信
- 14：10～ 停電時を想定して、非常用発電機を 10 分間稼働
- 14：10～ 本社、東京地区両方で災害対策本部要員が参集し、災害対策本部を立ち上げ

【重要業務を各班一斉に開始】

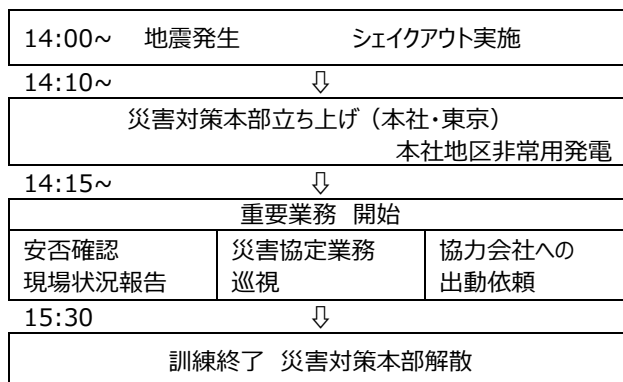
- 14：15～ 安否確認システムにより全社員は安否状況を連絡し、所属長が安否確認システムの連絡状況を確認。安否確認結果を衛星電話で災害対策本部に報告
 - 14：15～ 施工現場状況の確認と報告
 - 14：15～ 災害協定業務の着手（4 エリアで巡回による被災調査）
 - 14：15～ 協力会社への出勤依頼
 - 14：15～ 本社及び寮（避難所）の緊急避難所開設と避難住民の受け入れ
- 以下 省略

災害対策本部では、発災時に実際に使用する衛星電話や WEB 会議システムなどを使用して、情報伝達が円滑にできるかも確認します。



（写真上：衛星電話・ZOOM を活用した情報伝達訓練）

訓練フロー図



災害協定業務に基づく巡視の報告を災害対策本部でスクリーンに投影して確認し、情報共有、意思決定等の効率化も図っています。

302号巡回報告【中間】
異常ありません。



庄内川左岸巡回報告【中間】
異常ありません



木曽下流巡視(完了)
異常ありません



（写真上：安否確認システムを活用して送られてきた巡回パトロールの報告）

■ 自治体と連携した訓練

Pick Up

同社は地元の自治体と災害協定を締結しており、本社が地域の避難所にも指定され、自治体や地域住民とも連携した訓練を実施しています。このような取組は、地域防災力の向上にも寄与し、地域社会への貢献や社会的評価の向上にも繋がります。

- 近隣住民も参加する避難訓練では、避難所としての本社等への誘導等も実施しています。避難訓練には多くの住民が参加するなど好評です。
- 避難訓練後には避難名簿を作成し、協定先の防災担当課へ報告するところまで訓練で実施しています。
- 地域の中核的企業として、地元と連携した訓練を実施している建設会社は多く、このような地域社会への貢献や社会的評価の向上は社員のモチベーションアップにも繋がります。



Check【訓練の評価】

実施した訓練の評価、課題の把握、結果の記録

【訓練結果の振り返り】

- 災害対策本部では訓練の課題や気づきをとりまとめ、訓練の最後には災害対策本部長が訓練全体を通して総括を行い、訓練の振り返りを行っています。
- 訓練の結果をとりまとめた資料は、社内で閲覧できるように掲示板にアップし、全社員を対象として課題や改善点等の意見を募集しています。

■ 安否確認訓練の評価

Pick Up

同社では、発災直後の業務を効率化するためにシステム化された安否確認サービスを導入して、安否確認を実施しています。システムを通して回答した安否報告も自動集計され、返信率については定量的な評価指標として、訓練毎にモニタリングをしています。

2021年9月6日 第17回防災訓練における安否報告結果

全体の集計結果

回答状況		回答者	高層階の安否		出社	交通手段		現場	被害品		高層階避難禁止		高層階の安否確認	返信状況																		
回答済み	未回答	姓名	健康	無事	確認中	可能	不可	バス	自転車	徒歩	被災あり(建物)	被災あり(大規模)	未確認	確認していいい	1～2	3	4	5	7日以内	会社の金庫に封鎖されている	一部の高層階に封鎖されている	封鎖していいい	決まってるい	決まってるい	確認済	待機中	失触	その他				
35	366	1	0	2	379	1	6	375	11	35	9	268	30	43	378	0	2	6	170	122	67	15	12	149	149	88	313	73	0	382	5	0

部/地域別の集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部/地域別集計結果

部署/地域別の集計結果

回答状況

回答者状況

回答者の安否確認

回答状況

回答者状況

回答者の安否確認

回答状況

回答者状況

回答者の安否確認

回答状況は自動集計され、全社員の回答率をモニタリングします。

回答者からの安否確認の可否もシステムの可なりシステム。

訓練を繰り返してきた結果、1 時間以内

回答状況は自動集計され、全社員の回答率をモニタリングします。

回答者からの安否の状況、現場の状況、出社の可否もシステム上で確認できます。

訓練を繰り返してきた結果、1時間以内の回答率は99%以上となりました

回答時間(初回報告) ~14:30 30分以内 366人
~15:00 1時間以内 18人
~16:00 2時間以内 2人
未回答(メール不達) 1人 合計 387人

・複数登録した個人端末 4人
・単独登録端末 1人(安否確認メール不達)

【訓練の評価・振り返りの意見】

- 協定に基づく巡回について、ややリアルさに欠けるように感じた。有事の際に巡回に動ける者は管理職や近くで現場にいる社員になることも想定される。いろいろと想定しながら、訓練にもリアル感が出せるとよい。
- 巡回訓練では、本部は受け身の姿勢のためパトロール班に指示を出すなど、双方が連絡を取り合うことも必要ではないか。
- 安否確認サービスは確認作業なども操作性がよく携帯端末でも確認しやすかったが、スムーズに使うためには慣れが必要なので定期的に操作訓練が必要と考える。



Act【BCPの改善】

把握した課題に対する改善策の検討、BCP・次回訓練計画への反映

【訓練後に実施（検討）した改善、見直しなど】

- 発災直後の重要業務である安否確認を的確・確実に行うためクラウドサービスを導入したところ、安否確認が効率化、迅速化され、ほかの業務に人員を割くことが可能となり負担が緩和された。また、安否報告の返信も早くなった。
- 協力会社への依頼訓練は同じ社員ばかりではなく、別の社員も実施し対応力を高める。
- 訓練のマンネリ化を防ぐ観点から、すべてを事前に決められたシナリオ通りではなく、想定外の事象が起きた際の対応力をつけるため、訓練計画を工夫する。
- 情報伝達については、昨今普及している WEB 会議ツール、他の通信システム等も試行して、有効な方法を検討していく。

■ 訓練に変化をつけて対応力の向上

Pick Up

同社では総合訓練を継続して実施してきたため、参加者の習熟度が上がり、訓練も円滑になった一方で、参加者からは訓練のマンネリ化を感じるという声も…。

次のステップとして、訓練に変化をつける工夫など、想定外の事象への対応力向上にも取り組んでいます。

【マンネリ化防止のための工夫】

- 訓練は同じ訓練を定期的を実施することで、参加者の習熟度が向上し、BCP 業務の円滑な遂行が図られます。一方で、訓練参加者の習熟度が上がると訓練のマンネリ化が生じることも想定されるため、訓練に変化をつけ、対応力を向上させる工夫を実施しています。
- 同社でも、毎年の訓練を朝から午後に時間帯を変更するなど、訓練内容・付与条件を変えるなどして、マンネリ化の防止を図っています。

【マンネリ化防止の事例】

- 参集できなかったことを想定して、担当者を変えて実施
- 机上訓練と実動訓練を交互に実施
- 抜き打ち訓練の実施

事例②

株式会社グロージョ



■所在地

静岡県島田市

■従業員数 約 70 人

■資本金 約 9,000 万円

訓練の詳細情報

■訓練の種類

情報伝達訓練 等

■訓練実施場所 本社 2 階、本社駐車場、現場

■訓練参加者 全社員、地域住民

■訓練時間

1 ～ 2 時間

■想定されるハザード 震度 6 強以上の地震、台風、局地豪雨等大規模水害



Plan【訓練の計画】

BCP に基づき、訓練の目的を設定し有効な訓練計画を策定

■実施している訓練概要

- 災害対策本部の設置
- 調査班（パトロール）との情報伝達訓練
- 仮設トイレ設置、非常用電源稼働
- 災害対策機械操作（合同訓練への参加）
- 安否確認訓練、非常参集訓練
- 情報伝達訓練（協定者、現場）
- AED 手順確認訓練

■訓練の内容・目的等

- 実動訓練による発災直後の重要業務着手の目標時間の短縮
- 中堅社員の BCP 手順の習得
- 人事異動、組織変更等に伴う安否確認登録情報、指揮系統、関係機関・協力会社の連絡先等の変更の有無の確認
- 近隣住民を含めた訓練による地域貢献

【訓練計画の立案】

- 訓練の目的に応じて、訓練内容、訓練の種類（机上・実動）を設定し、訓練の参加者を決定します。訓練の習熟度が上がってきた場合には、就業時間外、休日など**訓練の条件設定に変化**をつけて計画することも効果的です。
- 同社では多様な訓練を計画しており、目的に応じて参加者は全社員、本部員幹部、対外班（営業部）、現場担当・作業員、中堅社員などに区分しています。訓練結果に基づく改善行動のなかで、中堅社員に**ターゲットを絞った訓練を計画**するなど、**戦略的に訓練計画を立案**しています。

第 4 部 平常時の訓練、維持管理及び改善

4. 1 訓練計画

毎年度訓練計画を立案の上実行し、訓練の結果を基に訓練内容・設備・対処法などの改善に努めるものとする。

4. 1. 1 全体実施計画＜全連手引の表 3-1＞（下記例を参照の上、年度計画を作成）

訓練名称	訓練内容	参加者・対象者	予定時期	実施場所	企画又は実施部署
総合防災	避難、消火、仮設本部設置、被災箇所点検、炊き出し、救護、仮設トイレ設置、非常用電源設置	社員全員	9 月	本社集会室 駐車場広場 工事現場	管理部 土木部
本部運営	総合防災訓練時、または単独で本部幹部による指揮命令訓練	本部員幹部	随時	災害対策本部	管理部
安否確認	安否コールによる応答訓練	社員全員	毎月	携帯電話	管理部
非常参集	公共機関、自家用車によらない参集の確認	本社員		本社	管理部

訓練の目的・内容に応じて、訓練の参加者・対象者を選定します。

訓練名称	訓練内容	参加者・対象者	実施時期	実施場所	実施部署
避難	工事現場全従業員による避難先への緊急避難	現場担当 現場作業員	工事着工初期	工事現場	土木部
協定準拠情報伝達	電話、ファックス、メールによる情報通信	登録情報連絡員	随時 (8～9 月)	本社	発注者 土木部
情報伝達	道路・河川現場点検	対外班（営業部） 土木部	9 月	集会室 土木部	管理部 土木部
災害復旧	図上（机上）訓練	土木部 中堅社員	12 月	土木部	土木部 管理部
物資輸送	被害想定現場までの、実車による走行訓練	土木部（資材）	9 月	最寄現場	土木部
災害対策機械操作	国土交通省、静岡県・静岡・浜松の訓練に参加	会社推薦者	春～秋	国土交通省事務所	土木部 仲介

■ タイムライン（防災行動計画）に基づいた訓練

Pick Up

タイムラインとは、災害の発生を前提に、災害時に発生する状況を予め想定し、共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画です。それぞれの実施主体のヨコの連携にも着目して計画すると効果的です。

【全体シナリオと班別シナリオの作成によるタイムラインの明確化】

- 全体シナリオを作成し、対象とするハザード、訓練の目的、訓練の全体の流れを明確にして周知することで、参加者全員が訓練の内容を理解することができます。
- 同社では、全体シナリオとは別に班別のシナリオも作成し、分単位でそれぞれの行動が連携されたシナリオを作成しています。対策本部に集約する情報のコントロールができるように訓練で確認しています。

全体				第10回 土砂災害模擬訓練				机上訓練計画(全体シナリオ)			
開始15時 終了18時				注) シナリオは、一部幹部のみ閲覧可能とする。訓練文書は別途作成する。							
訓練内容	訓練時間	訓練項目	訓練内容	業務班員(情報連絡班・調査班・対策班)の具体訓練内容	班別シナリオ(A班)・・・国一バイパス	班別シナリオ(B班)・・・県道島田大井川線	班別シナリオ(C班)・・・県道島田大井川線	班別シナリオ(D班)・・・県道島田大井川線	班別シナリオ(E班)・・・県道島田大井川線	班別シナリオ(F班)・・・県道島田大井川線	班別シナリオ(G班)・・・県道島田大井川線
BCP発動	15:00	M8クラス地震発生	安否確認実施	携帯電話の安否コールにより安否応答自動集計(本社又は工事現場)	15:00 安否確認 携帯電話の安否コールにより安否応答自動集計(本社又は工事現場)	15:00 安否確認 携帯電話の安否コールにより安否応答自動集計(本社又は工事現場)	15:00 安否確認 携帯電話の安否コールにより安否応答自動集計(本社又は工事現場)	15:00 安否確認 携帯電話の安否コールにより安否応答自動集計(本社又は工事現場)	15:00 安否確認 携帯電話の安否コールにより安否応答自動集計(本社又は工事現場)	15:00 安否確認 携帯電話の安否コールにより安否応答自動集計(本社又は工事現場)	15:00 安否確認 携帯電話の安否コールにより安否応答自動集計(本社又は工事現場)
本部設置	15:05	災害対策本部設置	本部員、業務班初動体制構築	組織体系の確認、班編成、役割付与。	15:05 災害対策本部設置 本部員、業務班初動体制構築	15:05 災害対策本部設置 本部員、業務班初動体制構築	15:05 災害対策本部設置 本部員、業務班初動体制構築	15:05 災害対策本部設置 本部員、業務班初動体制構築	15:05 災害対策本部設置 本部員、業務班初動体制構築	15:05 災害対策本部設置 本部員、業務班初動体制構築	15:05 災害対策本部設置 本部員、業務班初動体制構築
調査・情報	15:10～15:30	国道道路パトロール(浜側分)	国道1号バイパス道路点検A班(国道班)	調査班A班編成後、業務班長の指示によりパトロール開始 本社から野田ICへ向けて北進。道路遺構移動困難、別ルートにてバイパスへ向かう旨を情報連絡班へ連絡。(15:15) 東光寺トンネルの名古屋側出口付近が土砂崩壊で通行不可能を情報連絡班へ報告。引越、Uターンし、野田ICから一般県道を走り東光寺ICへ向かい谷稲葉ICまで確認すると追加報告 東光寺から谷稲葉間上下線異常なしでパトロール終了。帰社する旨を連絡。(15:28)	15:10 国道道路パトロール(浜側分) 15:15 国道道路パトロール(浜側分) 15:20 国道道路パトロール(浜側分) 15:25 国道道路パトロール(浜側分) 15:30 国道道路パトロール(浜側分)	15:10 国道道路パトロール(浜側分) 15:15 国道道路パトロール(浜側分) 15:20 国道道路パトロール(浜側分) 15:25 国道道路パトロール(浜側分) 15:30 国道道路パトロール(浜側分)	15:10 国道道路パトロール(浜側分) 15:15 国道道路パトロール(浜側分) 15:20 国道道路パトロール(浜側分) 15:25 国道道路パトロール(浜側分) 15:30 国道道路パトロール(浜側分)	15:10 国道道路パトロール(浜側分) 15:15 国道道路パトロール(浜側分) 15:20 国道道路パトロール(浜側分) 15:25 国道道路パトロール(浜側分) 15:30 国道道路パトロール(浜側分)	15:10 国道道路パトロール(浜側分) 15:15 国道道路パトロール(浜側分) 15:20 国道道路パトロール(浜側分) 15:25 国道道路パトロール(浜側分) 15:30 国道道路パトロール(浜側分)	15:10 国道道路パトロール(浜側分) 15:15 国道道路パトロール(浜側分) 15:20 国道道路パトロール(浜側分) 15:25 国道道路パトロール(浜側分) 15:30 国道道路パトロール(浜側分)	15:10 国道道路パトロール(浜側分) 15:15 国道道路パトロール(浜側分) 15:20 国道道路パトロール(浜側分) 15:25 国道道路パトロール(浜側分) 15:30 国道道路パトロール(浜側分)
	15:10～15:30	県道道路パトロール	県道島田川根線パトロールB班(県道班)	調査班B班編成後、業務班長の指示によりパトロール開始「相賀橋左岸より、徒歩にて周辺をパトロールします。」と追加報告。 相賀付近より、徒歩にて範囲をパトロールします。と追加報告。 その後車で旧国1を金谷に回り水路橋で神座に渡り、川口に向かうと報告 橋脚、川口取水口付近通行には支障なしを報告。(15:40) 相賀から川口への道路異常なしを報告。帰社する旨を連絡(16:00)	15:10 県道道路パトロール 15:15 県道道路パトロール 15:20 県道道路パトロール 15:25 県道道路パトロール 15:30 県道道路パトロール	15:10 県道道路パトロール 15:15 県道道路パトロール 15:20 県道道路パトロール 15:25 県道道路パトロール 15:30 県道道路パトロール	15:10 県道道路パトロール 15:15 県道道路パトロール 15:20 県道道路パトロール 15:25 県道道路パトロール 15:30 県道道路パトロール	15:10 県道道路パトロール 15:15 県道道路パトロール 15:20 県道道路パトロール 15:25 県道道路パトロール 15:30 県道道路パトロール	15:10 県道道路パトロール 15:15 県道道路パトロール 15:20 県道道路パトロール 15:25 県道道路パトロール 15:30 県道道路パトロール	15:10 県道道路パトロール 15:15 県道道路パトロール 15:20 県道道路パトロール 15:25 県道道路パトロール 15:30 県道道路パトロール	15:10 県道道路パトロール 15:15 県道道路パトロール 15:20 県道道路パトロール 15:25 県道道路パトロール 15:30 県道道路パトロール
	15:10～15:30	市道高橋千歳橋線	市道高橋千歳橋線	調査班C班編成後、業務班長の指示によりパトロール開始 はなみずき通りより柳山川沿いの走り道路状況を点検し、要所要所を報告。	15:10 市道高橋千歳橋線 15:15 市道高橋千歳橋線 15:20 市道高橋千歳橋線 15:25 市道高橋千歳橋線 15:30 市道高橋千歳橋線	15:10 市道高橋千歳橋線 15:15 市道高橋千歳橋線 15:20 市道高橋千歳橋線 15:25 市道高橋千歳橋線 15:30 市道高橋千歳橋線	15:10 市道高橋千歳橋線 15:15 市道高橋千歳橋線 15:20 市道高橋千歳橋線 15:25 市道高橋千歳橋線 15:30 市道高橋千歳橋線	15:10 市道高橋千歳橋線 15:15 市道高橋千歳橋線 15:20 市道高橋千歳橋線 15:25 市道高橋千歳橋線 15:30 市道高橋千歳橋線	15:10 市道高橋千歳橋線 15:15 市道高橋千歳橋線 15:20 市道高橋千歳橋線 15:25 市道高橋千歳橋線 15:30 市道高橋千歳橋線	15:10 市道高橋千歳橋線 15:15 市道高橋千歳橋線 15:20 市道高橋千歳橋線 15:25 市道高橋千歳橋線 15:30 市道高橋千歳橋線	15:10 市道高橋千歳橋線 15:15 市道高橋千歳橋線 15:20 市道高橋千歳橋線 15:25 市道高橋千歳橋線 15:30 市道高橋千歳橋線

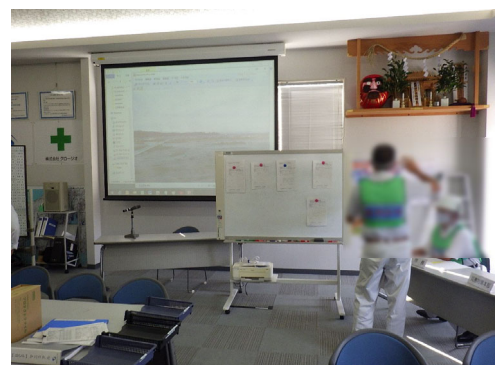
対策本部と各班がタイムラインを明確にして連携できることを調整

【訓練の事前準備】

効果的な訓練を円滑に実施するには、事前の準備が重要です。訓練シナリオ等のほか、会場、資機材等の事前に準備するものはリスト化しておきましょう。

【準備する資機材・備品等の例】

災害対策本部：スクリーン、ホワイトボード、A4用紙、ビブス、感染防止対策用品など
パトロール班：携帯電話、メモ帳、筆記用具、カメラ



■ 行政機関や建設業協会等の実施する合同訓練への参加

Pick Up

地域の行政機関や建設業協会などが実施する合同訓練に参加すると、単独ではできないような訓練が経験でき、また、発災時に実際に連携し合う行政機関、地元の建設会社等とのコミュニケーションを図ることができるため、非常に有効だという意見が多く聞かれました。

【同社が参加した合同訓練の例】

- 災害復旧図上訓練
- 道路啓開実動訓練（重機での啓開作業、重機への燃料供給、人命救助など）
- 道路啓開情報伝達訓練
- 堤防決壊シミュレーション訓練
- 災害対策本部車、排水ポンプ車の操作訓練
- 県下一斉情報伝達訓練

【合同訓練参加によるメリット】

- 地域の特性に応じて具体的なハザードを想定した**大規模かつ実践的な訓練が経験**できる
- 普段使い慣れていない排水ポンプ等の機器操作なども学ぶことができる
- 実際に連携・協力する**行政機関、地元建設会社とのタテとヨコのつながりが強化**できる
- 会社としての**事前準備が無くても大規模な訓練が経験**できる

【合同訓練参加時に工夫している点】

- 訓練実施後は社内で訓練結果を共有、**自社 BCP へのフィードバックなどを実施**している
- 同種訓練では、**参加者を変えるなど多くの者が訓練に参加**できるようにしている
- 発災時に行政機関から建設会社にな何を求められているかを把握することができるため、**訓練で得た知識や経験を自社の BCP 見直しの参考**としている



排水ポンプ車 ポンプ設置訓練



照明車 操作訓練



広域連携防災訓練（参考）



広域連携防災訓練（参考）



Do【訓練の実施】

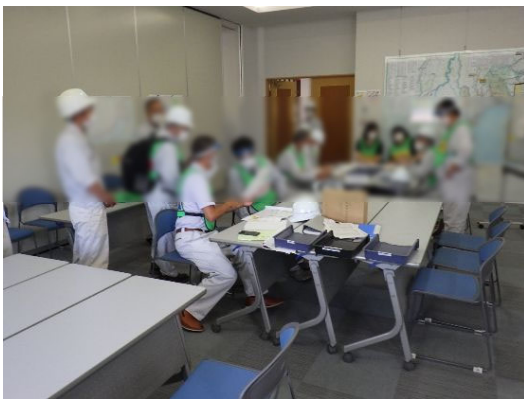
訓練計画に基づき、BCP 訓練を実施

【訓練の実施状況】

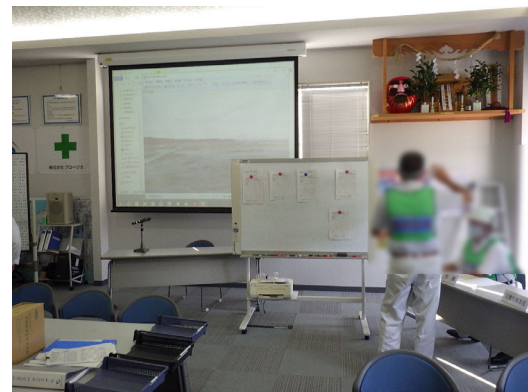
【災害想定】：M8 クラスの地震

【付与条件】：土曜日（15 時）、各種被災（道路橋の落下、法面の崩壊等）

- 15：00 M8 クラスの地震発生
- 15：00～ 安否確認訓練、BCP 発動
- 15：05～ 災害対策本部の設置、土木部職員の参集・参集人数の把握
初動体制構築（情報連絡班、調査班、対策班）、人員配置の指示
- 15：10～ 調査班によるパトロール開始
ドローン撮影の開始
- 15：10～ 各パトロール班より情報連絡班に経過報告
- 15：20～ 【災害確認】 県道の道路橋落下の報告……
以下 省略



情報伝達訓練の様子。調査班等からの報告は集約され、本部で対応を協議します。



調査班からの報告等の情報を一早く共有できるようにスクリーンを活用しています。



感染症対策のため、訓練においてもフェイスシールドやマスクを着用します。発災時にも感染症の拡大は事業継続に影響があるため、感染防止対策に関する備品を備蓄しておきます。



停電時を想定して、非常用発電機を稼働して、始動接続訓練を実施しています。発災直後の重要業務のため、参集した誰もが始動できるように、多くの人が参加しています。

【近隣住民を含めた避難誘導訓練】

- 本社の駐車場を地域の避難所として提供しているため、近隣住民を含めて、避難誘導訓練や消防訓練等を実施しています。
- 訓練等で日頃からコミュニケーションを図ることで、発災時には円滑な避難行動ができるようになります。
- 地域社会との連携は、地域防災力の向上に寄与することとなり、**地域社会への貢献や建設会社の社会的評価の向上**にも繋がります。



▲駐車場で実施した近隣住民も含めた避難誘導訓練

■ 外部講師を招いた訓練

Pick Up

BCPの訓練には机上訓練や実動訓練のほか、専門的な知識や技能を有する講師による研修型の訓練もあります。BCP に基づいた災害対応を実施する際に必要な専門的知識・技能等を講義型、ワークショップ型、体験型で習得します。

- 同社では避難誘導訓練を行った際に、初期消防訓練等とあわせて、**外部講師を招いて AED の操作方法を習得**するための訓練を実施しました。災害時にも想定される心肺蘇生法や AED の操作方法を学びました。
- 心肺蘇生法や AED の操作については、各地域の消防署等が出張講座を行っている地域もありますので、会社にて AED が設置されている場合は問い合わせてみることもよいでしょう。



▲外部講師による AED 操作、心肺蘇生法の講習



Check【訓練の評価】

実施した訓練の評価、課題の把握、結果の記録

【訓練結果の振り返り】

- 同社では訓練直後に経営者を含めた反省会を実施し、訓練の課題と対応策を検討し、次回の訓練シナリオ、BCP の見直しに関する意見を求める改善行動を実施しています。
- 反省会は訓練シナリオのなかでも位置付けて、全員が参加できるように配慮しています。



■ 抜き打ち訓練による効果検証

Pick Up

同社では、事前周知をした安否確認訓練とは別に、月に 1 回事前周知なしの安否確認訓練も実施して、安否の連絡が制限時間内にどの程度できるか確認し、連絡方法が定着しているかなどの効果検証も行っています。

【抜き打ち訓練の効果】

- 1 年に 1 回程度の訓練では、連絡方法や操作方法を忘れてしまうという意見もよく聞かれます。安否確認は、発災後の初期行動として重要業務であり社員等全員が速やかに対応する必要があるため、訓練の頻度を増やす、事前周知ありとなしの訓練を使い分けるなど、連絡方法が定着しているか検証すると有効です。

A

Act【BCPの改善】

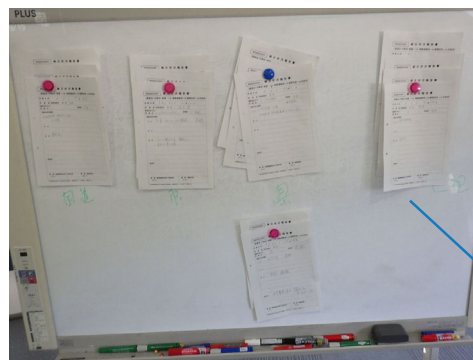
把握した課題に対する改善策の検討、BCP・次回訓練計画への反映

【訓練後に実施した改善、見直しなど】

- 中堅社員主体の訓練の実施を検討するなどの中堅社員の災害対応力の育成をした。
- 行政機関主催の合同訓練に参加した経験（堤防決壊シミュレーション訓練、排水ポンプ車操作訓練）を社内で水平展開した。
- 建設業協会主催の県下一斉情報伝達訓練で行った災害時連絡網に基づくメール返信等を担当者以外でも対応できるように水平展開した。
- 各班の報告を集約し掲示するホワイトボードは情報が集中すると記載する際に混雑し、変化する情報が整理しきれないなどの課題があがったため、A4 用紙にまとめたものを貼り付けて整理するように見直した。
- 訓練参加者全員がそれぞれの役割・班分けがわかるように、担当班名が記載されたビブスを着用した。



災害対応では、誰が参集できるかわからない、時々刻々と状況が変化することから、事前の役割分担通りには行かないことも想定し、役割分担が見える化するビブスを着用するように改善しました。



班ごとの報告を A4 用紙にまとめて掲示しマグネットで掲示します。新しい情報に更新された場合は、掲示物を交換するなど、情報共有が効率的で円滑な運用に改善されました。

事例③

土屋建設株式会社



■所在地

静岡県伊豆の国市

■従業員数

約 70 人

■資本金

約 4,500 万円

訓練の詳細情報

■訓練の種類

BCP 手順確認訓練
バックアップ復旧訓練

■訓練実施場所

本社、本社構内駐車場

■訓練参加者

災害対策本部、全社員

■訓練時間

約 1 ～ 2 時間

■想定されるハザード

南海トラフ巨大地震、大規模水害



Plan【訓練の計画】

BCP に基づき、訓練の目的を設定し有効な訓練計画を策定

■実施している訓練概要

- 災害時対応の確認訓練（机上訓練）
- 避難誘導訓練、初期消火訓練
- 安否確認訓練
- 自家発電への切り替え訓練
- 保有資機材の点検
- バックアップデータ立ち上げ訓練
- 災害対策車両の実動訓練（合同訓練）

■訓練の内容・目的等

- 災害対策本部、各班中心メンバー等による BCP の読み合わせによる役割分担の再確認
- 緊急参集メンバーによる対応拠点から代替拠点での事業再開までの所要時間の確認
- バックアップデータからの復旧、所要時間の確認
- 来訪者の避難誘導の手順確認
- 地震と火災の両方を想定した初動確認

【訓練計画の立案】

- 訓練計画では訓練を効果的に行うために、平日・休日、時間帯、被災状況等の基本的な条件を設定し、発災時の状況を想定します。
- 被災状況は複数の条件を組み合わせる、災害対策本部等の中心メンバーが被災し参集できないなど、不利な条件を設定し工夫すると対応力の向上に有効です。
- 安否確認訓練など発災後の初動で重要な業務は全社員が参加します。

訓練名称	訓練の目的・内容	参加者・対象者	予定時期	実施場所	企画実施部署
災害時対応の確認訓練（机上訓練）	緊急参集メンバーが事業継続計画の応急対応、事業継続の部分を読み合わせ、各要員が行うべき対応を確認する。	災害対策本部長、本部長、各班の中心メンバー	毎		
避難・誘導訓練（消防法に基づく又は自主訓練）	災害時の避難・誘導訓練。地震と火災発生を想定して屋外避難と点呼、初期消火。	全社員	毎		
安否確認訓練	クラウドサービスを使ったラインワークスメールにて、社員全員に対し安否を問う連絡をし、回答を求め、結果を集計する。	全社員	毎		
バックアップデータ立ち上げ訓練	バックアップデータから復旧できるか、どの程度の時間を要するかなどを検証する。	災害対			

訓練内容・目的等に応じて訓練参加者を計画します。安否確認訓練、避難誘導訓練等の初動で重要な対応は、全員が参加できるように配慮しています。

同社では、被災状況を地震と火災の両方を想定し、対応力向上のために訓練を工夫しています。

■ 安否確認訓練は新入社員・異動者が多い 4 月に計画

Pick Up

安否確認は社員の安全確認とともに、災害対応業務に従事できる人員把握のために BCP の初動で重要な行動です。新入社員、異動等で 4 月に体制が変わることが多いため、4 月に実施して、連絡確認リストを最新の情報に更新しておくことも重要です。

【繰り返して実施する安否確認訓練】

- 同社では安否確認訓練は 4 月に実施して、また抜き打ちでも実施しています。連絡手段は SNS 等を活用した訓練を実施していましたが、安否確認システムを導入し災害時にメールが送付され、各社員が回答すると自動集計するサービスを利用して効率化を図りました。
- 安否確認訓練は、徐々に回答率が上昇し、9 割以上の社員から返信が得られるなど、反復的に訓練を実施することで実効性が向上しています。

【訓練は反復が重要】

- 災害対応業務は通常の業務対応と異なることから、定期的の実施して、役割分担や災害対応の手順等を確認し、繰り返し実施することが重要です。

訓練名称	訓練内容	参加者・対象者	予定時期	実施場所	企画実施部署
災害時対応の確認訓練(机上訓練)	緊急参集メンバーが事業継続計画の応急対応、事業継続の部分を読み合わせ、各要員が行うべき対応を確認する。 防災地図上訓練(DIG)を行う。	災害対策本部長、本部長、各班の中心メンバー	毎年 12 月	本社会議室	土木部
避難・誘導訓練(消防法に基づく又は自主訓練)	災害時の避難・誘導訓練。地震と火災発生を想定して屋外避難と点呼、初期消火。(注：消防法により訓練が義務付けられている場合は必須)	全社員	毎年 12 月	本社構内	総務部
「エマージェンシーコール及びラインワークス」を使用した安否確認訓練	携帯電話メールを基本に、社員全員に対し安否を問う連絡をし、回答を求め、結果を集計する。	全社員	毎年 12 月	本社・社員自宅	営業部
緊急連絡訓練	固定電話、携帯電話の通話を使用せずに、緊急対応担当者が相互に迅速に連絡をとる。	全社員	毎年 12 月	本社	
非常災害本部立ち上げ訓練	バックアップデータから復旧できるか、どの程度の時間を要するかなどを検証する。	非常災害対策本部事務局員	毎年 12 月	本社	
災害時対応の確認訓練(実働訓練)	緊急参集メンバーが事業継続計画の応急対応、事業継続の主要部分を実働訓練する。	同上(またはその一部)	毎年 12 月	各現場	

同種の訓練を毎年定期に反復し実施して、いざという時に円滑に行動できるように備えています。

■ クラウドを活用したバックアップ確認訓練

Pick Up

発災時には BCP も含めて、重要な書類・図面・データ等が失われるリスクも想定されます。特に、津波や内水氾濫が想定されるような地域では浸水により、PC データ等が喪失するリスクも考慮して、バックアップの確保が重要となります。

【クラウドサービスを活用したバックアップ】

- BCP 対策として、クラウド上でデータのバックアップを行うサービスも増えてきています。クラウドサービスでは定期的に、または常に最新な情報を保存することが可能であり、バックアップ対応に有効です。また、災害後の事業継続や復旧に向けて、インターネット環境があればどこでもデータを復旧することが可能です。
- 同社でも、クラウドによるバックアップを導入し、常に最新のデータが保存できるようにしています。訓練でも、バックアップデータの立ち上げ訓練を実施し、バックアップデータに素早く接続し、復旧できるか確認しています。



Do【訓練の実施】

訓練実施計画に基づき、BCP 訓練を実施

【訓練の状況】

【災害時対応の確認訓練（机上訓練）】

- 緊急参集メンバーが BCP の応急対応、事業継続の関する部分を重点的に読み合わせ、各社員が行うべき役割を定期的に確認

【バックアップ復旧訓練】

- 実際にバックアップデータへの接続作業を実施し、バックアップデータの復旧に要する時間等も確認

【安否確認訓練】

- クラウドサービスを使った一斉メールで社員全員に安否確認を行う（回答率・回答時間は毎回モニタリング）

■ 本社の電源を落として訓練の臨場感をアップ

Pick Up

大規模災害後は電気・水道等のライフラインが停止することも十分想定されます。訓練時には発災後の状況にできる限り近づけて、BCP の対応手順を実行することが重要です。同社では、本社社屋の電源を実際に落として、訓練の臨場感を高める工夫をしています。

【災害対応用の保有資材等のチェック】

- 同社では、過去に道路啓開等の様々な災害対応を経験しており、自社の事業継続のほか地域社会への貢献も含めて、災害用備品の自社保有を維持・充実させ災害に備えています。

2.10.1 自社が保有している人員、資機材等		チェックリスト				令和3年6月25日	
資源名	種類	規格	燃料等	数量	単位	確認時期	在庫場所
						6月	11月
資材	カメラ	1.6t		1	個		
	ワイフジャケット	1人乗り オール付き		1	張		
	土嚢袋	大人用、子供用(10)		100	袋		
	土嚢袋	砂入り		1000	袋		
	ブルーシート	#3000 5.4m×7.2m		10	枚		
	ブルーシート	#3000 3.6m×5.4m		10	枚		
	大型土嚢袋(耐油性)	1tバック 袋のみ		130	袋		
	大型土嚢袋(耐油性)・中古	1tバック RC10入り		250	袋		
器具	水	ベントボイル500ml		240	本		
	発電機	11東E1DC60(60KVA)	軽油	1	台		
	発電機	富士重工S25(2.5KVA)	ガソリン10L	5	台		
	チェーンソー	ゼノアG2501	混合ガソリン0.23L	3	台		
	衛星電話	事務所用00881651483469	100V電力	2	台		
		工務用00881651483468	充電式				
車機類	車機類規格一覧表						(毎週点検)
	バックホウ	0.1m3 3t級		5	台		
	バックホウ	0.2m3 5t級		6	台		
	バックホウ	0.25m3 8t級		3	台		
	バックホウ	0.45m3 12t級		5	台		
	バックホウ	0.7m3 20t級		10	台		
	バックホウ	1.4m3 30t級		2	台		
	クローラダンプ	10t級		3	台		
重機類	ブルドーザ			2	台		
	ロータリーダンプ			3	台		
	アスファルトフィニッシャー			2	台		
	マカダムローラ			1	台		
	ダンプトラック			2	台		

大規模災害時には通常通りに資機材や燃料を調達できなくなるため、災害時の調達先の確保や資機材等の備蓄は重要です。同社では、訓練時には保有資材のチェックリストを活用して、災害時に備えた十分なストックがあるか確認しています。

■ 建設業協会と連携して行政機関と情報伝達訓練

Pick Up

発災時に連携し合う行政機関や地元の建設業協会等との情報伝達は重要な要素となります。BCP 訓練においても、協定を締結している関係機関等と情報伝達の方法を確認する、実際に連絡を取り合うなど、連絡方法に慣れておくことは BCP の実効性向上に有効です。

- 同社でも行政機関が行う合同訓練に参加したり、地元の建設業協会と連携し行政機関と情報伝達訓練を行うことで、タテの連携だけでなく、同地域の建設会社とヨコの連携も強化できると実感しています。



Check【訓練の評価】

実施した訓練の評価、課題の把握、結果の記録

【訓練の評価・振り返りの意見】

- 休日・夜間における対応には時間がかかる。参集時間を 2km/h と想定しているが本当に大丈夫か、自宅においても非常時の対策や対応、家族の理解が重要となる。
- 災害時に家族が全員揃っているとは限らないことを留意し、いざという時に混乱しないように役割を確認しておく。
- 各地区が実施している防災訓練に参加し、住んでいる地域の防災体制を確認する。いざという時に本当に役立つ参加型の訓練に積極的に参加して、避難や安否確認、救出・救護、炊き出しや避難訓練、避難所生活などを体験するとよい。
- 発災から全員避難まで慌てず避難できた。
- 避難訓練と来訪者の誘導訓練は同時に行うが、いかに安全でスムーズに行えるかを確認する必要がある。
- 地震時と火災時では対応が変わってくる。消火器の設置場所や使用方法の再確認が必要。
- 屋外避難後、点呼確認、不明者がいない事を確認したほうがよい。

■ 訓練結果記録簿の作成

Pick Up

訓練後は、訓練概要、訓練結果、改善点・所感などをまとめた「訓練実施記録」を作成し保存します。記録簿を作成することで、課題や改善点等を明確にし、後から振り返ることも可能となり、次回の訓練企画時の参考にもなります。

【訓練記録簿作成のポイント】

- 訓練実施記録は訓練結果とともに、訓練参加者や訓練の評価者が訓練で把握した課題や気づき等の意見を集約し、それに対する所感・改善点なども記載します。
- とりまとめた訓練実施記録は、次回の訓練計画への反映、BCP の改善・見直し等を行う際に有効な資料となります。
- 中部地方整備局の事業継続力認定制度は、3 年間の認定期間のため、継続申請の際には、BCP の改善の実施記録や定期的な点検の実施記録を求めており、訓練実施記録の参考様式も紹介しています。

4.1.2 訓練実施記録	
記録項目	内容
訓練の種類	バックアップデータ立上げ訓練
実施日時	令和5年9月10日
実施場所	内容
実施者	内容
訓練結果	・現場では各自持ち回りで対応している。 ・事務局はバックアップデータ接続作業等に10分程度時間を要したが問題なく復旧移行出来た。 ・参加者への対応もスムーズに完了した。
改善点、所感など	・現場からは各社のサーバー・バックアップシステムは手動としてバックアップしている。 ・事務局におけるバックアップデータのバックアップ頻度を週1回から毎日保存する体制とし、本社のアクセスも毎日行う事とする。HDの保管方法、復旧防止の徹底を図る。 ・事務局内においてもバックアップの仕組みが固くてもバックアップ出来るよう手順をマニュアル化し、災害時に備える。
改善点、所感など	・災害発生時等には、自力での避難が困難な場合があり、安全かつ速やかに避難誘導することが望まれる。 ・各地区防災訓練に参加し、住んでいる地域の防災体制を確認する。 ・いざという時に本当に役立つ参加型の訓練に積極的に参加して、避難や安否確認、救出・救護、炊き出しや避難訓練、避難所生活などを体験してみる。

訓練実施記録の参考様式

■ 抜き打ち訓練による安否確認訓練

Pick Up

発災後に初動対応として必要になる安否確認は、いつ・どこで、何を行っているときに対応が必要となるか分かりません。常日頃から速やかな対応ができるように訓練をしておくことで、発災後に BCP が有効に機能し、円滑な災害対応業務の着手に繋がります。

- 同社では安否確認を円滑に実施するために、クラウドサービスを使った安否確認システムを導入しました。システム導入により回答率は上昇したため、引き続き、抜き打ち訓練による対応力の向上にも努めています。

A

Act【BCPの改善】

把握した課題に対する改善策の検討、BCP・次回訓練計画への反映

【訓練後に実施した改善、見直し及び今後の改善計画】

- 安否確認システムについては、新入社員・異動職員等に重要性・操作方法を説明し、確実に対応できるよう教育する。訓練を重ね、返信達成率 100%を目指す。
- システム化された安否確認において、各社員に渡しているスマートフォンの操作方法に慣れない社員は、若手が操作を教えるなど迅速な回答ができるように改善を行った。
- 現場における外付 HD のバックアップ頻度を週 1 回から毎日保存するように徹底し、本社へのアクセス保存も毎日行う。HD の保管方法、盗難防止の徹底も図る。
- 事務所内においてもバックアップ担当者が居なくてもバックアップ対応が出来るように手順をマニュアル化する。
- 本社では災害に伴う突発的な停電によるデータ破損を回避するデータ保存のクラウド化を実施。
- 事務所・倉庫等の設備・家具の転倒防止対策、避難路のサインの表示を実施。
- 工場における非常用の発電設備が不十分なことが想定されたため、可搬型の発電機の活用を検討。
- 社員・社屋の耐震性不足が懸念されたため、自治体の無料耐震診断を実施し、耐震性がない場合は耐震補強も検討。

■ 訓練参加者への改善点の聞き取り

Pick Up

訓練は実施して終わりではなく、訓練参加者の気づきや課題等の意見を集約して、改善・見直しに繋げていく行動が重要です。訓練計画の段階で、振り返り会議、アンケート調査等の手法を計画し、訓練後速やかに実施できるようにしましょう。

- 同社では、訓練後は速やかに聞き取り調査を行い、訓練における課題点や改善点を確認しています。
- 集約した意見・改善点等は訓練実施記録にとりまとめ、BCP にも今後の課題・問題点等として整理し、次回訓練の計画、BCP の改善にも活用しています。